

学校コード F122210106259

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

認可

静岡県立大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

静岡県公立大学法人

令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 広報・企画室

職名・氏名 フクサンジ アキヤマ ヨシタカ
副参事 秋山 嘉孝

電話番号 054-202-2050

（夜間） 054-202-2623

e-mail tyous@u-shizuoka-ken.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

看護学研究科

＜看護学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	20
7. その他全般的事項	21

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

静岡県公立大学法人

(2) 大学名

静岡県立大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒422-8021

静岡県静岡市駿河区小鹿二丁目2番1号

(静岡県静岡市駿河区谷田52番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オイケ カズオ) 尾池 和夫 (平成30年4月)		
学長	(キトウ ヒロシ) 鬼頭 宏 (平成27年4月)	(オイケ カズオ) 尾池 和夫 (令和3年4月)	前学長の任期満了退職により、令和3年4月1日着任(3)
研究科長	(ヤマダ アヤコ) 山田 紋子 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程 博士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	年 3	人 3	年次 -	人 9		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	3人 (-) [-]	1人 (-) [-]	3人 (-) [-]	1人 (-) [-]	3人 (-) [-]	1人 (-) [-]	1倍	一倍	
志願者数	3 (-) [-]	(-) (-) [-]	5 (-) [-]	(-) (-) [-]	4 (-) [-]	(-) (-) []			
受験者数	3 (-) [-]	(-) (-) [-]	5 (-) [-]	(-) (-) [-]	4 (-) [-]	(-) (-) []			
合格者数	2 (-) [-]	(-) (-) [-]	4 (-) [-]	(-) (-) [-]	3 (-) [-]	(-) (-) []			
B 入学者数	2 (-) [-]	(-) (-) [-]	4 (-) [-]	(-) (-) [-]	3 (-) [-]	(-) (-) []			
入学定員超過率 B/A	0.66		1.33		1				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	2 [-] (-)	— [-] (-)	4 [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	
2年次	/		2 [-] (-)	— [-] (-)	4 [-] (-)	— [-] (-)	
3年次			/		/		2 [-] (-)
4年次	/						/
計			[2] (-)		[6] (-)		

・ 令和4年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入**してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」**を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	2 人	0 人	令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	6 人	0 人	令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
令和4年度	9 人	0 人	令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
			令和4年度	— 人	— 人	
合 計		0 人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数 (a)}}{\text{令和2年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数 (a)}}{\text{令和3年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数 (a)}}{\text{令和4年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学研究科看護学専攻博士後期課程>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究特講	1前	2			7						
	生体環境科学特講	1前・2前		2		3						
	保健福祉政策特講	1前・2前		2								1
	小計(3科目)	-	2	4	0	10	0	0	0	0	0	1
専門科目	看護技術開発特講	1前		2		2	2					
	感染看護学特講	1前		2		1						
	小児看護実践開発特講	1前		2		1						
	助産学特講	1前		2		1	1					
	がん看護理論特講	1前		2		2						
	周手術期看護学特講	1前		2		2						
	精神保健看護学特講	1前		2		2	1					
	地域・在宅看護システム特講	1前		2		1	1					
	小計(8科目)	-	0	16	0	10	5	0	0	0	0	0
演習・研究科目	看護学特別演習	1通	2			10	5					
	看護学特別研究Ⅰ	1通	2			10	3					
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2			10	3					
	看護学特別研究Ⅲ	3通	4			10	3					
	小計(4科目)	-	10	0	0	10	5	0	0	0	0	0
合計(15科目)	-	12	20	0	12	5	0	0	0	0	1	
卒業要件及び履修方法												
<p>(修了要件) 本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(16単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。</p> <p>(履修方法) (1) 演習・研究科目10単位を必修科目として履修する。 (2) 専門科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。 (3) 共通科目の看護学研究特講2単位を必修科目として履修し、その他の共通科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。</p>												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究特講	1前	2			7						
	生体環境科学特講	1前・2前		2		2						1
	保健福祉政策特講	1前・2前		2								1
	小計(3科目)	-	2	4	0	9	0	0	0	0	0	2
専門科目	看護技術開発特講(未開講)	1前		2		2	2					
	感染看護学特講	1前		2		1						
	小児看護実践開発特講	1前		2		1						
	助産学特講(未開講)	1前		2		1	1					
	がん看護理論特講(未開講)	1前		2		1						
	周手術期看護学特講(未開講)	1前		2		2						
	精神保健看護学特講(未開講)	1前		2		2	1					
	地域・在宅看護システム特講(未開講)	1前		2		2	3					
	小計(8科目)	-	0	16	0	11	3	0	0	0	0	0
演習・研究科目	看護学特別演習	1通	2			11	5					
	看護学特別研究Ⅰ	1通	2			10	5					
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2			10	5					
	看護学特別研究Ⅲ	3通	4			10	5					
	小計(4科目)	-	10	0	0	11	5	0	0	0	0	0
合計(15科目)	-	12	20	0	12	5	0	0	0	0	2	
卒業要件及び履修方法												
<p>(修了要件) 本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(16単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。</p> <p>(履修方法) (1) 演習・研究科目10単位を必修科目として履修する。 (2) 専門科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。 (3) 共通科目の看護学研究特講2単位を必修科目として履修し、その他の共通科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。</p>												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究特講	1前	2			7						
	生体環境科学特講	1前・2前		2		2						1
	保健福祉政策特講	1前・2前		2								1
	小計(3科目)	-	2	4	0	9	0	0	0	0	0	2
専門科目	看護技術開発特講	1前		2		2	2					
	感染看護学特講(未開講)	1前		2		1						
	小児看護実践開発特講(未開講)	1前		2		1						
	助産学特講(未開講)	1前		2		1	1					
	がん看護理論特講(未開講)	1前		2		1						1
	周手術期看護学特講(未開講)	1前		2		2						
	精神保健看護学特講(未開講)	1前		2		1	1					
	地域・在宅看護システム特講	1前		2		1						1
	小計(8科目)	-	0	16	0	9	4	0	0	0	0	2
演習・研究科目	看護学特別演習	1通	2			9	4					
	看護学特別研究Ⅰ	1通	2			9	3					
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2			9	3					
	看護学特別研究Ⅲ	3通	4			9	3					
	小計(4科目)	-	10	0	0	9	4	0	0	0	0	0
合計(15科目)	-	12	20	0	10	4	0	0	0	0	4	

卒業要件及び履修方法

(修了要件)
本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(16単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。

(履修方法)
(1) 演習・研究科目10単位を必修科目として履修する。
(2) 専門科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。
(3) 共通科目の看護学研究特講2単位を必修科目として履修し、その他の共通科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究特講	1前	2			7						
	生体環境科学特講	1前・2前		2		2						1
	保健福祉政策特講	1前・2前		2								1
	小計(3科目)	-	2	4	0	9	0	0	0	0	0	2
専門科目	看護技術開発特講(未開講)	1前		2		2	2					
	感染看護学特講	1前		2		1						
	小児看護実践開発特講(未開講)	1前		2		1						
	助産学特講(未開講)	1前		2		1	1					
	がん看護理論特講(未開講)	1前		2		1						
	周手術期看護学特講	1前		2		2						
	精神保健看護学特講(未開講)	1前		2		1	1					1
	地域・在宅看護システム特講	1前		2		2						
	小計(8科目)	-	0	16	0	11	3	0	0	0	0	1
演習・研究科目	看護学特別演習	1通	2			11	5					
	看護学特別研究Ⅰ	1通	2			10	5					
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2			10	5					
	看護学特別研究Ⅲ	3通	4			10	5					
	小計(4科目)	-	10	0	0	11	5	0	0	0	0	0
合計(15科目)	-	12	20	0	12	5	0	0	0	0	3	

卒業要件及び履修方法

(修了要件)
本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(16単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。

(履修方法)
(1) 演習・研究科目10単位を必修科目として履修する。
(2) 専門科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。
(3) 共通科目の看護学研究特講2単位を必修科目として履修し、その他の共通科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

3名の専任教員（教授2名、准教授1名）が就任辞退されたが、講義予定であった科目には本人が兼任講師として担当することとなったため以下のとおり変更

- ・「生体環境科学特講」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更し、兼任・兼担を「0」から「1」に変更。
- ・「がん看護理論特講」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更し、兼任・兼担を「0」から「1」に変更。
- ・「地域・在宅看護システム特講」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更し、兼任・兼担を「0」から「1」に変更。
- ・「看護学特別演習」の専任教員等の配置を「教授10、准教授5」から「教授9、准教授4」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授10」から「教授9」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授10」から「教授9」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授10」から「教授9」に変更。

【令和3年度】

1名の専任教員（准教授）が辞任したが、講義予定であった科目には本人が兼任講師として担当することとなったため、以下の通り変更

- ・「精神保健看護学特講」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更し、兼任・兼担を「0」から「1」に変更。
- ・「看護学特別演習」の専任教員等の配置を「准教授4」から「准教授3」に変更。

令和2年10月に就任した2名の専任教員（教授）の令和2年度7月AC教員審査結果に基づき、以下の通りに変更

- ・「地域・在宅看護システム特講」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に変更。
- ・「看護学特別演習」の専任教員等の配置を「教授9」から「教授11」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授9」から「教授10」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授9」から「教授10」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授9」から「教授10」に変更。

令和3年10月に就任した2名の専任教員（准教授）の令和3年度7月AC教員審査結果に基づき、以下の通りに変更

- ・「看護学特別演習」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授5」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授5」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授5」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授5」に変更。

【令和4年度】

令和3年10月に就任した2名の専任教員（准教授）の令和3年度7月AC教員審査結果に基づき、以下の通りに変更

- ・「看護学特別演習」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授5」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授5」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授5」に変更。
- ・「看護学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授5」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	10 科目	0 科目	15 科目	5 科目 [0]	10 科目 [0]	0 科目 [0]	15 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{15} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	静岡県立大学短期大学部 (必要面積3,200㎡)と共用			
	校舎敷地	178,730.44㎡	4,766.00㎡	22,914.20㎡	206,410.64㎡				
	運動場用地	6,576.27㎡	0.00㎡	7,428.38㎡	14,004.65㎡				
	小 計	185,306.71㎡	4,766.00㎡	30,342.58㎡	220,415.29㎡				
	そ の 他	3,329.08㎡	5,173.00㎡	0.00㎡	8,502.08㎡				
	合 計	188,635.79㎡	9,939.00㎡	30,342.58㎡	228,917.37㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	静岡県立大学短期大学部 (必要面積3,100㎡)と共用			
		74,492.68㎡ (㎡)	4,766㎡ (㎡)	12,679.19㎡ (㎡)	91,937.87㎡ (㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室 49室	演 習 室 17室	実験実習室 47室	情報処理学習施設 10室 (補助職員 一人)	語学学習施設 3室 (補助職員 2人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		看護学研究科博士後期課程		17 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点		
	看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)	12,912 [1,790] (12,912 [1,790])	150 [47] (150 [47])	20 [20] (20 [20])	589 (589)	4,014 (4,014)	139 (139)		
	計	12,912 [1,790] (12,912 [1,790])	150 [47] (150 [47])	20 [20] (20 [20])	589 (589)	4,014 (4,014)	139 (139)		
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数					
		7,740.49㎡	1,410席	約1,142,000冊					
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		6,805.90㎡	テニスコート12面：7,766㎡						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。
		教員1人当り研究費等	380千円	380千円	図書購入費	7,426千円	7,426千円	7,426千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	8,260千円	8,260千円	8,260千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		県内761千円 県外987千円	536千円	536千円	千円	千円	千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		授業料、入学金、入学検定料、その他特定財源により維持運営し、不足する部分については、静岡県の運営費交付金を充当する。						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	静岡県立大学					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	2	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度
薬学部						1.10	1.08			静岡県静岡市駿河区谷田52-1
薬学科	6	80	—	480	学士(薬学)	1.10	1.08	—	平成18	
薬科学科	4	40	—	160	学士(薬科学)	1.12	1.07	—	平成18	
食品栄養科学部						1.12	1.14			
食品生命科学科	4	25	—	100	学士(食品栄養科学)	1.15	1.24	—	昭和62	
栄養生命科学科	4	25	—	100	学士(食品栄養科学)	1.09	1.08	—	昭和62	
環境生命科学科	4	20	—	80	学士(食品栄養科学)	1.13	1.10	—	平成26	
国際関係学部						1.14	1.13			
国際関係学科	4	60	—	240	学士(国際関係学)	1.18	1.21	—	昭和62	
国際言語文化学科	4	120	—	480	学士(国際言語文化)	1.11	1.09	—	昭和62	
経営情報学部										
経営情報学科	4	125	—	425	学士(経営情報学)	1.05	1.09	—	昭和62	
看護学部										
看護学科	4	120	3年次25人	530	学士(看護学)	1.00	1.00	—	平成9	
大学全体	—	615	25	2,670	—	—	—	—	—	
(修士課程・博士前期課程)										
薬食生命科学総合学府										
薬科学専攻	2	30	—	60	修士(薬科学)	1.36	1.33	—	平成24	
食品栄養科学専攻	2	25	—	50	修士(食品栄養科学)	1.20	1.16	—	平成24	
環境科学専攻	2	20	—	40	修士(環境科学)	0.65	0.60	—	平成24	
国際関係学研究科										
国際関係学専攻	2	5	—	10	修士(国際関係)	1.00	1.20	—	平成3	
比較文化専攻	2	5	—	10	修士(比較文化)	1.10	0.80	—	平成3	
経営情報イノベーション研究科										
経営情報イノベーション専攻	2	10	—	20	修士(経営情報学) 修士(学術)	0.95	0.80	—	平成23	
看護学研究科										
看護学専攻	2	16	—	32	修士(看護学)	0.71	0.62	—	平成13	静岡県静岡市駿河区小鹿2-2-1

大学の名称	静岡県立大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	2	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
(博士後期課程)											
薬食生命科学総合学府										静岡県静岡市駿河区谷田52-1	
薬学専攻	4	5	—	20	博士(薬学)	1.75	1.20	—	平成24		
薬科学専攻	3	11	—	33	博士(薬科学)	0.78	0.72	—	平成24		
薬食生命科学専攻	3	5	—	15	博士(薬食生命科学、生命薬科学)	0.53	0.40	—	平成24		
食品栄養科学専攻	3	10	—	30	博士(食品栄養科学)	0.23	0.30	—	平成24		
環境科学専攻	3	7	—	21	博士(環境科学)	0.32	0.14	—	平成24		
経営情報イノベーション研究科											
経営情報イノベーション専攻	3	3	—	9	博士(経営情報学) 博士(学術)	1.21	0.66	—	平成23		
看護学研究科										静岡県静岡市駿河区小鹿2-2-1	
看護学専攻	3	3	—	9	博士(看護学)	0.99	1.00	—	令和2		
大学の名称	静岡県立大学短期大学部						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍	倍			静岡県静岡市駿河区小鹿2-2-1	
静岡県立大学短期大学部			人								
歯科衛生学科	3	40	—	120	短期大学士(歯科衛生学)	0.99	0.97	—	平成9		
社会福祉学科						0.59	0.54				
(社会福祉専攻)	2	20	—	40	短期大学士(社会福祉学)	0.92	0.85	—	平成9		
(介護福祉専攻)	2	50	—	100		0.46	0.42	—	平成9		
こども学科	2	30	—	60	短期大学士(こども学)	1.08	1.10	—	平成28		
大学全体	—	140	—	320	—	—	—	—	—		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学研究科看護学専攻博士後期課程>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】	
専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(卒業)年月/保有学位等>	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(卒業)年月/保有学位等>	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(卒業)年月/保有学位等>
職名	担当授業科目名	職名	担当授業科目名	職名	担当授業科目名
専 教授	渡邊 順子 (66) <令和2年4月> 博士(保健学)	専 教授	渡邊 順子 (66) <令和2年4月> 博士(保健学)	専 教授	渡邊 順子 (67) <令和2年4月> 博士(保健学)
	看護技術開発特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護技術開発特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護技術開発特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ
専 教授	金澤 寛明 (59) <令和2年4月> 博士(医学)				
	生体環境科学特講				
専 教授	荒井 孝子 (53) <令和2年4月> 博士(ヒューマン・ケア科学)	専 教授	荒井 孝子 (53) <令和2年4月> 博士(ヒューマン・ケア科学)	専 教授	荒井 孝子 (54) <令和2年4月> 博士(ヒューマン・ケア科学)
	生体環境科学特講 看護技術開発特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		生体環境科学特講 看護技術開発特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		生体環境科学特講 看護技術開発特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ
専 教授	井上 健一郎 (51) <令和2年4月> 博士(医学)	専 教授	井上 健一郎 (51) <令和2年4月> 博士(医学)	専 教授	井上 健一郎 (52) <令和2年4月> 博士(医学)
	生体環境科学特講		生体環境科学特講		生体環境科学特講
専 教授	操 華子 (56) <令和2年4月> Doctor of philosophy in Nursing	専 教授	操 華子 (56) <令和2年4月> Doctor of philosophy in Nursing	専 教授	操 華子 (57) <令和2年4月> Doctor of philosophy in Nursing
	看護学研究特講 感染症看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 感染症看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 感染症看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ
専 教授	山田 敬子 (50) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 教授	山田 敬子 (50) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 教授	山田 敬子 (51) <令和2年4月> 博士(看護学)
	看護学研究特講 がん看護理論特講 母手術看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 がん看護理論特講 母手術看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 がん看護理論特講 母手術看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ
専 教授	青木 和恵 (65) <令和2年4月> 修士(保健学)				
	がん看護理論特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ				
専 教授	田中 龍佳 (42) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 教授	田中 龍佳 (42) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 教授	田中 龍佳 (43) <令和2年4月> 博士(看護学)
	看護学研究特講 母手術看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 母手術看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 母手術看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ
専 教授	重宗 一 (49) <令和2年4月> 博士(精神保健学)	専 教授	重宗 一 (49) <令和2年4月> 博士(精神保健学)	専 教授	重宗 一 (50) <令和2年4月> 博士(精神保健学)
	看護学研究特講 精神保健看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 精神保健看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 精神保健看護学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ
専 教授	太田 尚子 (59) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 教授	太田 尚子 (59) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 教授	太田 尚子 (60) <令和2年4月> 博士(看護学)
	看護学研究特講 助産学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 助産学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 助産学特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ
専 教授	山下 早苗 (53) <令和2年4月> 博士(保健学)	専 教授	山下 早苗 (53) <令和2年4月> 博士(保健学)	専 教授	山下 早苗 (54) <令和2年4月> 博士(保健学)
	看護学研究特講 小児看護実践開発特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 小児看護実践開発特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ		看護学研究特講 小児看護実践開発特講 看護学特別演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

・金澤寛明教授が就任辞退し、「生体環境科学特講」は本人が兼任講師としてオムニバス担当部分を担当する。
・青木和恵教授が就任辞退し、「がん看護理論特講」は本人が兼任講師としてオムニバス及び共同担当部分を担当する。「看護学特別演習」「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」「看護学特別研究Ⅲ」は担当しないこととし、担当テーマを削除する。
・安田真美准教授が就任辞退し、「地域・在宅看護システム特講」は本人が兼任講師としてオムニバス及び共同担当部分を担当する。「看護学特別演習」は担当しないこととし、担当テーマを削除する。
・令和2年4月1日付で新たに専任教員2名を採用し、令和2年度中にAC教員審査予定。

【令和3年度】

・村方多鶴子准教授が辞任し、「精神保健看護学特講」は本人が兼任講師としてオムニバス担当部分を担当する。「看護学特別演習」「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」「看護学特別研究Ⅲ」は担当しないこととし、担当テーマを削除する。
・青木和恵兼任講師が辞任し、「がん看護理論特講」は担当しないこととする。当該兼任講師のオムニバス担当部分は、当該科目の担当教員である山田紋子教授が担当することとする。令和2年7月AC教員審査済み。
・安田真美兼任講師が辞任し、「地域・在宅看護システム特講」は担当しないこととする。
・畑中純子教授が就任し、「地域・在宅看護システム特講」、「看護学特別演習」、「看護学特別研究Ⅰ」、「看護学特別研究Ⅱ」、「看護学特別研究Ⅲ」を担当することとする。令和2年度7月AC教員審査済み。
・林みよ子教授が就任し、「地域・在宅看護システム特講」、「看護学特別演習」を担当することとする。令和2年7月AC教員審査済み。
・藤田景子准教授が、「看護学特別研究Ⅰ」、「看護学特別研究Ⅱ」、「看護学特別研究Ⅲ」を担当することとする。令和2年7月AC教員審査済み。
・令和3年4月1日付で成瀬早苗准教授、堀芽久美准教授を採用し、令和3年10月より「看護学特別演習」、「看護学特別研究Ⅰ」、「看護学特別研究Ⅱ」、「看護学特別研究Ⅲ」を担当することとする。令和3年7月AC教員審査済み。

【令和4年度】

・村方多鶴子兼任講師が辞任し、「精神保健看護学特講」は担当しないこととする。当該兼任講師のオムニバス担当部分は、当該科目の担当教員である皇宗一教授が担当することとする。令和3年7月AC教員審査済み。
・成瀬早苗准教授、堀芽久美准教授が就任し、「看護学特別演習」、「看護学特別研究Ⅰ」、「看護学特別研究Ⅱ」、「看護学特別研究Ⅲ」を担当することとする。令和3年7月AC教員審査済み。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
12	5	0	0	17	0	12	5	0	0	17	0
(12)	(5)	(0)	(0)	(17)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
7	6	4				10	5	2			
(7)	(6)	(4)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
12	5	0	0	17	0	12	5	0	0	17	0
0	[0]	[]	[]	[0]	[]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
10	5	2				7	6	4			
[3]	[Δ1]	[Δ2]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、原可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長し て採用する教員数
65	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{17} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{17} = \boxed{5.88} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	金澤 寛明	R2.3	選択	生体環境科学特講	②	R2.3.31自己都合による退職のため就任辞退（R2）			
2	教授	青木 和恵	R2.3	選択	がん看護理論特講	①	R2.3.31定年による退職のため就任辞退（R2）			
				必修	看護学特別演習	①				
				必修	看護学特別研究Ⅰ	①				
				必修	看護学特別研究Ⅱ	①				
3	准教授	安田 真美	R2.3	選択	地域・在宅看護システム特講	①	R2.3.31自己都合による退職のため就任辞退（R2）			
				必修	看護学特別演習	①				
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
3	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	6	科目	計	1	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	准教授	村方 多鶴子	R3.3	選択	精神保健看護学特講	①	R3.3.31自己都合による退職のため辞任（3）			
				必修	看護学特別演習	①				
				必修	看護学特別研究Ⅰ	①				
				必修	看護学特別研究Ⅱ	①				
				必修	看護学特別研究Ⅲ	①				
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	5	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
4	人	必修	8	科目	必修	8	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	12	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{4}{17} = 23.52\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数				①の合計数 (a)			
担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)				②の合計数 (b)			
				③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和2年3月31日付にて、3名の専任教員(教授2名、准教授1名)が退職した。これに対して、令和2年度は、開講講義科目については3名全員が兼任教員となり当該教員が担当予定の講義科目を担当した。3名のうち2名が「看護学特別演習」を担当予定であったが、それぞれのテーマについては同じ分野を専門分野とする専任の教授が配置されているため、学生の履修に当たり支障はなかった。また、3名のうち1名が看護学特別研究Ⅰ～Ⅲを研究指導補助教員として担当予定であったが、同じ分野を専門分野とする専任の教授が配置されているため、学生の履修及び研究指導に当たり支障はなかった。

令和3年度については、令和2年4月1日付にて新たに専任教員2名(教授)を採用し、AC教員審査を受審した。その結果を受け、講義科目について、専門科目(2科目)は専任教員が担当することとした。共通科目(1科目)は、引き続き兼任教員が担当することとした。

また、令和3年3月31日付にて、1名の専任教員(准教授)が辞任した。これに対して次の様に対応した。第1に、開講講義科目については当該教員が兼任教員となり担当予定の講義科目を担当した。第2に、担当予定であった看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ～Ⅲについては、テーマに関して同じ分野を専門分野とする専任の教授が配置されているため、学生の履修に当たり支障はなかった。また、令和3年4月1日付にて新たに専任教員2名(准教授)を採用し、令和3年7月のAC教員審査を受審した。その結果を受け、令和3年10月より看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ～Ⅲを担当することとした。これらにより、学生の履修及び研究指導等への影響は最小限にできたと考える。学生への周知は、入学生・在校生ガイダンス、各科目の授業ガイダンス、指導教員からの直接の伝達にて行った。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>授業科目の概要</p> <p>科目「看護学特別演習」</p> <p>(7 青木和恵)学生自身の臨床経験と、修得した文献検討に関する知識など本課程で修得した集学的知識と思考より、がん患者のWOCケア、がん患者の療養Processに関する研究課題を明確にする。</p> <p>(15 安田真美)地域・在宅看護システム特講の学修をもとに、学生が関心のある介護保険施設における認知症患者のQOL向上を目指した看護に関する文献を批判的・系統的に検討する。その結果を踏まえて、フィールドワークを行い、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(16 村方多鶴子)精神看護学特講での学修を基に、精神科訪問看護を行うスタッフ教育や精神障害を持つ母親への支援について、批判的・系統的にレビューを行い、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>科目「看護学特別研究Ⅰ」</p> <p>(7 青木和恵)学生が修得した集学的知識と思考により、次に関する研究計画書を作成する。①がん患者のWOC(オストミー・創傷・失禁)ケアに関する開発②がん患者の療養Processに関する問題・課題</p> <p>(16 村方多鶴子)看護学研究特講、精神保健看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、学生が関心のある研究課題を決定し、博士論文の作成に向けた研究計画を立案し、研究計画書を作成する。</p> <p>科目「看護学特別研究Ⅱ」</p> <p>(7 青木和恵)①がん患者のWOC(オストミー・創傷・失禁)ケアに関する開発、②がん患者の療養Processに関する支援の開発、について立案した研究計画を実行する。</p> <p>(16 村方多鶴子)看護学特別研究Ⅰを踏まえ、学生が関心のある、精神科訪問看護を行うスタッフ教育や精神障害を持つ母親への支援についての研究課題に関する研究計画に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>科目「看護学特別研究Ⅲ」</p> <p>(7 青木和恵)がん患者のWOC(オストミー・創傷・失禁)ケアに関する開発、②がん患者の療養Processに関する支援の開発、について実施した研究を博士論文として完成させる。</p> <p>(16 村方多鶴子)看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、精神科訪問看護を行うスタッフ教育や精神障害を持つ母親への支援についての研究課題に関する研究計画に沿って、論理的に思考し、博士論文として完成させる。</p>	<p>令和2年度については、科目担当者であった青木和恵教授、安田真美准教授の就任辞退により、看護学特別演習の科目概要から当該教員2名の担当テーマを削除した。また、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」「看護学特別研究Ⅲ」の科目概要から青木和恵教授の担当テーマを削除した。それらの科目の担当教員には同分野の教授が配置されていることから、学生の履修及び研究指導に支障はなかった。</p> <p>令和3年度については、科目担当者であった村方多鶴子准教授の辞任により、「看護学特別演習」、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」「看護学特別研究Ⅲ」の科目概要から当該教員の担当テーマを削除した。それらの科目の担当教員には同分野の教授が配置されていることから、学生の履修及び研究指導に支障はなかった。また、令和2年4月1日付にて採用した専任教員2名(教授)及び就任中の専任教員1名(准教授)が、AC教員審査を受審した。その結果を受け、畑中純子教授、林みよ子教授、藤田景子准教授が、新たに以下の科目と内容を担当することとした。さらに、令和3年4月1日付にて採用した専任教員2名が、令和3年7月AC教員審査を受審した。その結果を受け、成瀬早苗准教授、堀芽久美准教授が、令和3年10月1日より新たに以下の科目を担当することとした。</p> <p>科目「看護学特別演習」</p> <p>(1 畑中純子) 地域・在宅看護システム特講の学修を基に、地域保健活動に従事する保健師等の教育や職域の人々への健康支援に関するテーマについて文献を批判的、系統的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(2 林みよ子)地域・在宅看護システム特講での学修を基に、脳卒中患者とその家族の在宅移行支援に関するテーマについて、文献を系統的・批判的にレビューし、フィールドワーク等を行って、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(5 藤田景子)助産学特講での学修を基に、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)や周産期メンタルヘルス等のテーマについて、批判的・系統的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(成瀬早苗)講義で既習した知識や学修を基に、特に在宅の支援を要する高齢者を対象としたテーマについて文献を収集、批判的吟味、系統的にレビューし、自己の研究課題を明確にする。さらに、課題を展開、尺度などの測定用具の開発を中心に解決する研究手法を検討する。</p> <p>(堀芽久美)実際に公開している国や都道府県の保健統計資料の解析、国内外の論文の包括的レビューを通して、地域の健康増進・保持活動の実態を明らかにし、健康増進・保持活動の促進に寄与する実現可能性のある自己の研究課題を明確にする。</p> <p>科目「看護学特別研究Ⅰ」</p> <p>(1 畑中純子)地域・在宅看護システム特講、看護学特別演習での学修を活用して、地域保健活動に従事する保健師等の教育および職域の人々への健康支援に関する研究課題の研究計画を立案・作成する。</p> <p>(5 藤田景子)看護学研究特講、助産学特講、看護学特別演習での学修を活用して、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)被害者への看護実践に関する研究課題の研究計画を立案・作成する。</p> <p>(成瀬早苗)既習の学修を活用し、在宅の支援を要する高齢者を対象とした研究課題に関する研究計画を立案・作成する。</p> <p>(堀芽久美)看護学特別演習での学修を踏まえ、地域に実在する健康増進・保持活動の促進に寄与する研究課題に関する博士論文の作成に向けた研究計画の立案、研究計画書の作成を行う。</p>

	<p>科目「看護学特別研究Ⅱ」</p> <p>(1 畑中純子)看護学特別研究Ⅰを踏まえ、地域保健活動に従事する保健師等の教育および職域の人々への健康支援に関する研究課題の研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(5 藤田景子)看護学特別研究Ⅰを踏まえ、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)被害者への看護実践に関する研究課題の研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(成瀬早苗)看護学特別研究Ⅰを踏まえ、在宅の支援を要する高齢者を対象とした研究課題に関する研究計画に沿って自律的に研究活動を遂行する。</p> <p>(堀芽久美)看護学特別研究Ⅰを踏まえ、地域に実在する健康増進・保持活動の促進に寄与する研究課題について、研究計画書に沿って、計画を実施する。</p> <p>科目「看護学特別研究Ⅲ」</p> <p>(1 畑中純子)看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、地域保健活動に従事する保健師等の教育および職域の人々への健康支援に関する研究課題の研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(5 藤田景子)看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)被害者への看護実践に関する研究課題の研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(成瀬早苗)看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、在宅の支援を要する高齢者を対象とした研究課題に関する研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(堀芽久美)看護学特別研究Ⅱを踏まえ、地域に実在する健康増進・保持活動の促進に寄与する研究計画について、立案した研究計画書に沿って、研究を実施し、博士論文を完成させる。</p>
<p>入学者選抜制度と方法</p> <p>学力検査(外国語)、面接(口述試験)及び提出書類(修士論文及び研究計画書)により総合的に判定する。</p> <p>学力検査(外国語)については、一次募集では、大学院入試会場でTOEFL ITPの試験を行う。二次募集の際には、TOEFL iBTまたはTOEIC L&R公開テストのスコアを用いる。</p>	<p>受験生の受験機会の増加、ITP試験実施に伴う教員負担の軽減を図るため、一次募集、二次募集ともに、TOEIC L&R公開テストのスコアを用いる。</p> <p>ただし、令和3年度、4年度一次・二次募集、令和5年度一次募集については、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から令和2年度3月以降のTOEIC L&R公開テストが抽選制となっていることを鑑み、スコアレポートを提出できない受験生への対応として、TOEIC L&R-IPテストを実施している。</p>
<p>授業の方法</p> <p>全ての科目を対面授業で実施する予定であった。</p>	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、一部の科目を双方向のオンライン授業で実施した。令和3年度からは、各学生の希望に合わせ、対面方式とオンライン双方向方式を組み合わせたハイブリッド授業を実施している。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>看護学研究科の専門委員会としてFD委員会を設置している。本委員会は、看護学部設置されているFD委員会と協働してFD活動を行っている。 看護学研究科教務・カリキュラム委員会が学生による学習達成度自己評価及び指導教員による他者評価、また学生に対してヒアリング調査を実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和3年度は11回/年のFD委員会を開催した。その内2回は、研究科FD委員会であった。教員の参加率は100%であった。 研究科教務・カリキュラム委員会は、18回/年開催した。教員の参加率は100%であった。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FD研修会の企画運営、実施後評価について／授業公開について／授業評価について／授業評価アンケートの学生へのフィードバックについて</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ FD研修会の開催(全5回、内研究科主催は2回)・ 教員相互の授業公開・ 学生による学習達成度自己評価／学生への授業・学習環境等に関するヒアリング調査・ 科研費獲得支援のための研修会 <p>b 実施方法</p> <p>本看護学部／研究科では、学部教員の内、教授、准教授、一部(助産学課程)の講師と助教が学部と研究科を兼務している。研究科主催のFD研修会は、研究科担当教員全員の出席を原則とし、周知を図った。 また、学部／研究科全体の看護学教育の構築に係ることから、研究科を担当していない学部教員にも、積極的な参加を促した。また、学部主催のFD研修会は、教員全員の出席を原則とし、周知を図った。 尚、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、当該時期の感染状況に応じた開催方法をとった(オンライン形式2回、参集形式3回)。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>学部教員は49名であり、その内、研究科担当の教員は19名である。 研究科主催のFD研修会については第1回は学部教員42名(85.7%)、第2回は学部教員43名(87.6%)が参加した。 [その内、研究科担当の教員は、第1回14名(73.7%)、第2回17名(89.5%)] 学部主催のFD研修会については第1回41名(83.7%)、第2回34名(69.4%)、第3回36名(73.5%)が参加した。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>学生が学びやすい環境を整備するため、令和3年度より、対面式とオンライン双方向式を組み合わせたハイブリッド授業を導入し、各学生がいずれかを選択できることとした。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>令和4年3月に、学生による学習達成度自己評価及び学生への授業・学習環境等に関するヒアリング調査を実施した。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>研究科委員会にて、結果の分析・報告を行い、次年度の授業運営に反映させることとした。 また、調査結果に対する対応について、学生にフィードバックした。</p>

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制
a 委員会の設置状況 該当なし
b 委員会の開催状況（回数や開催日など） 該当なし
c 委員会の審議事項等 該当なし
d その他 該当なし
② 審議状況
a 審議した内容 該当なし
b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況 該当なし
c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況 該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
看護学研究科看護学専攻博士後期課程を令和2年4月に開設した。入学定員3名のところ、令和2年度は2名、令和3年度は4名、令和4年度は3名が入学し、定員を充足している。令和2年度前半はオンライン双方向システムを含めた新型コロナウイルス感染症拡大予防対策の整備に時間を要し、一部の共通科目の開講が遅延したものの、その後の授業の開講、研究指導及び博士論文検討会の開催については概ね予定通り進行している。科目の開講においては、ハイブリット授業を導入したことにより、遠方に在住する学生や社会人学生がより履修しやすくなった。今後も設置の趣旨・目的達成のため、さらなる教育研究の充実に取り組む。
② 自己点検・評価報告書
a 公表（予定）時期
・看護学部・研究科報 令和4年8月に公表予定
・静岡県公立大学法人評価委員会による「令和3事業年度に係る業務の実績に関する評価結果」 令和4年9月に公表予定
b 公表方法
・看護学部及び看護学研究科の教育成果、学生支援、委員会・各教員の社会貢献状況、それらの課題をまとめた「看護学部・研究科報」を毎年作成し、大学HPに掲載している。
・毎年、年度事業計画に基づく活動の成果について、静岡県公立大学法人評価委員会による評価を受けており、「事業年度に係る業務の実績に関する評価結果」として、大学HPに掲載している。
③ 認証評価を受ける計画
・平成28年度に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、大学基準に適合している旨の評価結果を得た。当評価による認定期間は、平成29（2017）年4月1日から7年間である。次回は、令和5年度に受審予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

